

前田建設工業(株) 御中

鶴岡市風力発電事業に関する意見書

2020年9月6日

鶴岡市風力発電事業計画に関して、日本の山岳信仰や修験道の調査研究を進める日本山岳修験学会から意見書を提出いたします。計画発表から意見書の提出まで短期間ですので、会員の総意の統合はできませんが、可能な限り意見をくみ取って作成しました。

今回の計画地である羽黒山北部と月山西部は、古くからの山岳信仰と修験道の聖域である出羽三山の一部を形成する地域です。今回公表された「(仮称)山形県鶴岡市風力発電事業に係る計画段階環境配慮書」には、出羽三山の歴史・文化に関する影響評価がほとんど記載されておりません。今回の事業が展開した場合、山岳信仰や修験道の聖地に対して大きな景観・環境の破壊が齎されます。計画地は単なる「物理的空間」ではありません。人間と自然が作り上げてきた「文化的景観」です。2005年の文化財保護法改正により、景観は「文化財」として評価されるようになりました。

出羽三山は、人間が長い間、親しみと畏敬をもち、信仰の対象としてきた聖なる山です。山は水分(水源地)で、豊かな水の恵みによって庄内平野に稲の稔りを齎します。亡くなった人びとの魂は、月山に留まって子孫を見守り、毎年お盆の時期には山から家々に迎え火の導きで戻ってきて子孫と交流します。山は「たましいのふるさと」です。風車が林立すると、夜間には白色の明かりが山中に点滅することになります。無残な光景です。

羽黒山や月山の山麓や周囲に風車が立ち並んだ光景が出現すれば、庄内の人々が美しい自然との交流の中で育んできた「心」が破壊されます。風景や景観の中には「目に見えないもの」があり、人々はそれを神仏の信仰として長い間、大切に維持継続してきたのです。完成時の景観シュミレーションによれば、鳥居の向こう側に風車が立ち並びます。聖地に対しての冒瀆です。本来、禁忌として絶対にやってはいけないことを、今回の計画は組み込みました。明らかに一線を越えたのではないのでしょうか。

羽黒山は、2017年に文化庁が「日本遺産」に認定し、様々な取組みを地域が協働で行い、国内に留まらず海外へも戦略的に発信して、地域の活性化を図る観光事業の展開が期待されていますが、風車が出現すれば、急速に魅力が薄れます。コロナ禍が収束し観光事業が再開され、外国人観光客が訪れた時に、風車が林立した出羽三山の光景を目にすれば、失望し幻滅することは明らかです。海外の人々は、日本の文化政策の貧困さを嘲笑うでしょう。

貴社は「地元の人々」の意見をよく聞いて判断するとのことですが、今回の問題は、山形県の庄内地方に留まりません。出羽三山は、東日本に広大な「信仰圏」を持ち、沢山の「講」によって支えられてきました。東京近辺でも千葉県には多くの出羽三山講が結成されています。三山講や奥州講の意見も聞いて頂きたい。出羽三山信仰は大きな広がりを持っているのです。

出羽三山は、大峯山・英彦山と並ぶ、修験道の三大聖地で、日本を代表する山岳信仰や修験道の霊山です。日本山岳修験学会は、羽黒山では、昭和60年(1985)と平成15年(2003)の過去二回、地元の方々の多大なご協力を得て、羽黒町(現・鶴岡市)で学術研究大会を開催し

で大きな成果を得ました。現在でも多くの地元の方々との交流は続いています。会員の中には山伏修行に入ったものもかなりおります。外国人の関心も高く、アメリカ、フランス、ドイツ、イギリス、イタリア、イスラエルなどの研究者の出羽三山信仰研究も盛んです。

今回の風力発電計画が実現した場合、最も危惧されるのは、全国各地に波及する景観破壊のドミノ効果です。今回の事業が先例となれば、日本各地に数多くある山岳信仰や修験道に関わる山では、どこでも風力発電が可能となり歯止めが効かなくなります。日本人は山川草木のすべてに「いのち」が宿ると考えてきました。慣れ親しんできた山川大河、美しい森、田園風景の景観破壊が加速度的に進み「ふるさとの風景」が失われていく可能性があります。各地の観光事業にもマイナスになるでしょう。

後世の人々から「愚かなことをやった」と言われたいにしないといけないのです。今回の計画を巡っては、歴史学・民俗学・宗教学・地理学・景観学・造園学・植物学・鳥類学など多様な分野の専門家によるシンポジウムなどを企画し、歴史・文化・自然の総合的観点から検討すべきではないでしょうか。ズームでの会議の開催はやろうと思えば簡単にできます。

2020年1月以来、新型コロナウイルスの感染拡大によって日常生活が大きな転換を迫られました。現在は、「ある時代の終焉」なのです。経済成長と利益追求に邁進してきた人間社会の在り方が問われている現在、前田建設工業も従来の計画を全面的に見直す時期になったのではないのでしょうか。風力発電事業は、計画申請すれば、容易に実現可能とのことですが、最低限守るべき共通ルールを作るべきです。再生エネルギーは、将来の日本にとって必要ですが、風力発電の適地の選定は、もっと慎重に行ってしかるべきでしょう。

以上のような観点から、鶴岡市風力発電事業計画の撤回を強く求めます。

#### 日本山岳修験学会

会長 鈴木正崇（慶應義塾大学名誉教授・日本宗教学会評議員）

副会長 長谷部八朗（駒澤大学学長・駒澤大学仏教学部教授）

副会長 神田より子（敬和学園大学名誉教授）

副会長 根井浄（日本宗教民俗学会代表委員・元龍谷大学教授）

#### 連絡先

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1-23-1

駒澤大学仏教学部長谷部八朗研究室内 日本山岳修験学会

TEL 03 - 3418-9274 （毎土曜 10：30～16：00）

E-mail : [sanngakushugen@gmail.com](mailto:sanngakushugen@gmail.com)

HP / FB

<http://www.sangakushugen.jp/index.html>

<https://www.facebook.com/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E5%B1%B1%E5%B2%B3%E4%BF%AE%E9%A8%93%E5%AD%A6%E4%BC%9A-739879502886038/>